

## 子育て世代包括支援センターの取り組み報告

(1) 子育て世代包括支援センターの取り組み報告 <資料1-1>

(2) 平成28年度中学校区子育て支援ネットワーク会議の報告 <資料1-2>

# 子育て世代包括支援センターの取り組み報告

資料1-1

## 1 子育て世代包括支援センターの体制

- 【基本型利用者支援員】 1名(幼稚園教諭)
- 【母子保健型利用者支援員】 4名(保健師1名、助産師3名)

## 2 平成28年度事業実績

### 基本型利用者支援

①<<相談件数>> 表I

	電話相談	来館相談	巡回相談	その他
4月	13	3	65	
5月	10	4	63	
6月	5	2	74	家庭訪問1
7月	2	5	60	家庭訪問1
8月	7	4	56	
9月	7	5	42	
10月	15	8	67	
11月	5	3	46	
12月	1	4	48	家庭訪問1
1月	7	1	48	
2月				
3月				
計	72	39	569	

②<<相談内容別件数>>

表II

相談内容	食事	発達	授乳・卒乳	子育て	健康	生活のリズム	保育所幼稚園	情報提供	一時預かり	その他	合計
4月	電話相談	1	1		1			8		1	13
	来館相談		1		1					1	3
	巡回相談	7	12	3	17	8	7	4	2	5	65
5月	電話相談			1			1	1	6	1	10
	来館相談			2					1	1	4
	巡回相談	10	15	3	16	4	3	6	3	1	63
6月	電話相談				1			1	1	1	5
	来館相談	1	7		1						3
	巡回相談	6	10	7	13	9	7	11	4	9	76
7月	電話相談									2	2
	来館相談		2		1				1	1	5
	巡回相談	7	12	5	15	6	4	5	10	1	69
8月	電話相談	1			1		1		2		7
	来館相談	1	1	1	1			1			6
	巡回相談	3	9	1	20	5	2	8	3	5	56
9月	電話相談				1				4		8
	来館相談	2	1		2				2	1	8
	巡回相談	5	10	4	17	8	2	8	2	3	67
10月	電話相談	1	3		2	1			2	1	15
	来館相談		2		2	1		2	1		9
	巡回相談	4	10	6	19	5		8	5	3	67
11月	電話相談		1	1	3	1				1	8
	来館相談				2			1			4
	巡回相談	5	10	2	13	12	3	2	2		56
12月	電話相談	1									1
	来館相談				1				2	1	4
	巡回相談	4	10	2	11	5	3	6	2	1	48
1月	電話相談	1	1			1	1		2	1	7
	来館相談	1	1		1						3
	巡回相談	7	5		14	1	1	8	5	7	48
合計		68	118	36	178	68	35	72	68	19	740

※斜体は訪問を含む

母子保健型利用者支援

①《母子健康手帳発行時健康相談》

表Ⅲ-①

H28	新規	転入
4月	58	3
5月	60	3
6月	64	4
7月	57	6
8月	70	4
9月	58	5
10月	66	2
11月	65	5
12月	67	6
1月	63	8
計	628	46

新規 表Ⅲ-②

現在児数	人数	%
0	270	43.0
1	245	39.0
2	98	15.6
3	11	1.8
4	3	0.5
5～	1	0.2
	628	



第1子妊娠年齢 表Ⅲ-④

年齢	人	%
18～19	5	1.9
20～24	39	14.4
25～29	90	33.3
30～34	85	31.5
35～39	43	15.9
40～	8	3.0
	270	

転入 表Ⅲ-③

現在児数	人数	%
0	35	76.1
1	8	17.4
2	3	6.5

②《助産師一般相談》

表Ⅳ

H28	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	計
相談人数	3	1	6	6	3	3	9	11	9	8	59
妊婦	1	0	4	3	1	3	3	5	6	3	29
産婦	2	1	2	3	2	0	6	6	3	5	30

※妊婦：乳房の手入れ、腹緊に対する不安など

※産後・児について：授乳相談、乳児家庭全戸訪問事業の事後相談、卒乳や児の病気など乳児期後半の相談、児の体重の増えの相談、2人目妊娠の相談など

③《産後ママのほっとサロン(新規)》

表Ⅴ

日程	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	計
相談来所人数(保セ)	6	7	3	7	12	7	10	16	68
相談来所人数(八子)	7	3	3	5	1	4	1	中止	24

④《子どもセンター巡回相談》

表Ⅵ

日程	12月	1月	計
相談来所人数(西子セ)	6	15	21
相談来所人数(東子セ)	7	中止	7

3 1年間の振り返り

○母子健康手帳発行時に丁寧な面接を実施することで、個々が抱える状況を把握することができ、妊産婦との信頼関係が生まれる。

このことが、その後の様々な課題解決や、親子にとって最適な支援へ切れ目なく繋げられる体制が出来てきている。

地域子育て支援センタークレヨンにおける相談実績

参考

《ひろば事業（自由来館）による相談》

平成29年1月31日

相談内容	食事	発達	授乳 卒乳	子育て	健康	生活 リズム	保育所 幼稚園	情報 提供	その他	計
4月	2	8	0	1	0	2	1	0	0	14
5月	2	5	1	5	1	0	1	2	0	17
6月	2	4	0	3	5	0	0	1	1	16
7月	7	4	1	4	2	1	2	1	0	22
8月	6	2	0	3	0	3	1	0	0	15
9月	0	4	1	2	1	2	1	0	0	11
10月	2	8	1	4	1	3	0	0	0	19
11月	2	1	1	1	0	0	1	0	1	7
12月	6	5	2	7	1	1	0	0	0	22
1月	5	7	3	4	0	3	3	1	0	26
2月										0
3月										0
合計	34	48	10	34	11	15	10	5	2	169

《こそだて相談日》

相談内容	食事	発達	授乳 卒乳	子育て	健康	生活 リズム	保育所 幼稚園	情報 提供	その他	計	相談件数
4月			1	1					1	3	1
5月				2					1	3	2
6月										0	0
7月										0	0
8月	1			1						2	1
9月	1		1	3					1	6	4
10月		0								0	0
11月		3		2					0	5	2
12月	1	1		2	1	1				6	2
1月		1		1						2	1
2月										0	
3月										0	
合計	3	6	2	12	1	1	0	0	4	27	13

## 平成28年度中学校区子育て支援ネットワーク会議の報告

### 1. 目的

地域社会全体で妊娠から子育てまでを切れ目なく支援する「子育てトータルサポート体制」の構築をめざし、中学校区単位で子育て支援者が一同に会し、関係機関の連携体制や今後の子育て支援の展望について検討した。

### 2. これまでの経緯

#### (1) 平成26年度以前の取り組み

全体での合同研修会を行いながら、各中学校区で情報交換等を行った。それぞれの子育て支援事業の情報交換や事業調整を行いながら、校区別の課題についても共有し、その解決に向けて具体的な方策を検討していくことで、校区の子育て支援事業の充実と子育て環境の向上を図った。

#### (2) 平成27年度の取り組み

国の子育て世代包括支援センターの動向を見据えつつ、「地域でできること」及び「地域連携」について検討した。①現状・強み・工夫を点検し、②良い関わりを目指すのに各自ができることを確認し、③地域の特性（地域資源）を踏まえ、支援する形を検討した。

### 3. 平成28年度のテーマ

平成27年度検討した内容を踏まえ、地域連携の視点や指標を見出し、実践を通じて、親子を地域で支援する地域力の向上を目指した。

全体テーマ「近江八幡の子育て支援ネットワーク（地域連携）を考える」

### 4. ネットワーク会議の構成員

中学校区ごとに、下記のメンバーで検討・実践に取り組んだ。

- (1) まちづくり協議会 子育て支援担当者
- (2) 学区別子育てサポーターリーダー（代表者）
- (3) 公私立保育所・幼稚園・認定こども園 家庭支援・子育て支援担当者
- (4) 主任児童委員
- (5) 学校支援コーディネーター、家庭教育支援コーディネーター
- (6) 生涯学習課 学区担当指導主事
- (7) 健康推進課 学区担当保健師
- (8) 地域子育て支援拠点 事業担当者
- (9) ファミリーサポートセンター 事業担当者
- (10) 子どもセンター・子育て支援センター
- (11) その他必要な関係機関、関係者

## 5. 開催概要

	日時・会場	内容	参加人数	写真
第1回目	7月15日(金) 14:30~16:30 桐原コミセン	地域の共通指標を考え、 何ができるかを探る	51人 八中 13人 東中 14人 西中 13人 安中 11人	
第2回目	10月14日(金) 14:30~16:30 桐原コミセン	地域の子育て力向上を 目指し、具体的な取り組みを考える	45人 八中 12人 東中 13人 西中 10人 安中 10人	
第3回目	2月10日(金) 14:30~16:30 金田コミセン	各学区の実践報告から、 地域の子育て力について考える	43人 八中 14人 東中 14人 西中 9人 安中 6人	

全3回のコーディネーター：大阪人間科学大学・中川千恵美教授

## 6. 実践報告（第3回目会議）

### （1）八幡中学校区

#### ①人と人との出会い・ふれあい・つながり・支え合い

（地域の高齢者、子どもをはじめ、近隣施設の利用者さんとの世代間交流）

人と人がつながる・ふれあう・支えあう地域づくり

（おもちゃの図書館「すくすくちゃん」オープニングセレモニーでの交流）

#### ②「かんたん手作りおやつを作っちゃおう！」

### （2）八幡西中学校区

#### ①北里学区の福祉フェスティバルで色々な世代と交流した事例

#### ②桐原保育所・共生センター・八幡西子どもセンター合同避難訓練

### （3）八幡東中学校区

#### ①子育てサロン・社会福祉大会でのおやつ作り

#### ②むさっ子食堂の取組

### （4）安土中学校区

#### ①安土子育て支援センター事業における地域のボランティア団体との連携や交流

#### ②ミニ運動会（安土コミュニティセンター 親子ひろば「バンビ」と共催）

## 7. 考察と今後の方向性

### (1) 小さな実践が地域のつながりを強化

今年度のネットワーク会議では、中学校区毎にグループワークをしながら、1・2回目に「地域でできる取り組み」を考えた。その後、取り組みに向けて連携を深めていき、第3回目に各中学校区から2事例ずつの実践報告となった。メンバー自身が検討した「地域でできる取り組み」をきっかけに、①多世代や異年齢の交流が生まれた事例、②隣接する子育て支援機関の連携が強化された事例、③子育て支援者間の連携が生まれた事例などが報告され、「地域の資源を乳幼児の育ちや親の育ちに繋がられるよう、よりよい関係作りに努めたい」との発表もあった。

支援者同士が声をかけ合い、小さな連携がつながり、実践することが、親子を地域で支える体制（地域連携）の構築に寄与することが示唆された。

### (2) 発表事例に学ぶ

第3回目のネットワーク会議時に収集したアンケートでは、右表のとおり、発表事例の方が、親子のニーズに答えている評価が高い傾向となった。

自由記述からは「世代間交流、地域での交流、イベントなどは、お母さんが求めている」「各学区の実態に合わせて、工夫しながら取り組まれている」と評価された。また、「やる気になればできるんだと思う」「まち全体で子育てが応援できたらいいなと思う」など、今後への意欲に繋がっている意見もあった。

#### ●親子のニーズに答えていると思うか。

	自身の活動	発表事例
1 (非常にそう思わない)	0人	0人
2	3人	0人
3	12人	4人
4 ↓	16人	17人
5 (非常にそう思う)	2人	13人

### (3) 活動しやすい単位は、小学校区

今年度の実践報告を受け、「連携して子育て支援を展開する範囲・区域の想定」について、ネットワーク会議のメンバーに意見聴取を行った。結果は、小学校区24人、中学校区10人、市域全体2人となり、「小学校区」が単位であれば一緒に活動しやすいとの回答であった。

自由記述にて「多くの団体、組織が小学校区をベースとして活動している」という現状、「共通の話題も多く、狙いも定まる」「広範囲だと連携しにくい」など連携の容易さ、また「小さな集まりで温かくほのぼのとした関わりが良い」という親子目線での意見があった。「まずは小学校区の連携を密に」という意見からも、小学校区から、中学校区・市全体へ広げていくことが望ましいと考えられる。

### (4) 「小さな」実践・発表を、次年度・他地域に「大きく」展開する

今年度の取り組みを通じて、ネットワーク会議のメンバー自身が、情報共有やネットワークづくりの必要性を意識していることから、

◆小学校区単位で、新たな連携を検討→実践→実践を共有→新たな展開を検討

という流れを確立し、小さな実践から新たな展開を積み重ね、地域の連携を深めてはどうかと考える。

なお、自由記述で「参加できない人への誘い」「来ない人のニーズ」「必要な方に必要な支援を」との問題意識に関する意見も多数あったことを踏まえ、実践報告をヒントに、今後の展開や課題解決の方法、顔のみえる関係構築について話し合うことにより、地域社会全体で妊娠から子育てまでを切れ目なく支援する「子育てトータルサポート体制」の構築に繋がりたいと考える。